

家族の介護をきっかけに、 介護を仕事にしたスタッフ

キャリアアップ

石村 彩さん / 26歳

特別養護老人ホーム フレンドピーチちはや
介護スタッフ

キャリア

18歳頃	高校卒業
20歳頃	出産
22歳頃	祖母の介護をしながら、看護助手として勤務
24歳頃	現職に就職

ある日の1日



POINT

- おばあちゃんの介護がきっかけで、介護の仕事をしたと決意
- 見学した施設は、イメージとはまるで違う、とても暖かい家のような感じ
- 将来は家族で介護の事業所を運営したい!

福祉の仕事をする前は何をしていた？

— 看護助手としてクリニックで働いていました

わたしが小さい頃から両親が共働きだったので、大好きなおじいちゃん、おばあちゃんと過ごしていたこともあり、昔から高齢の方が身近な存在でした。高校を卒業してからは、アルバイトをしたり、子育てに専念していましたが、4年ほど前にまた働き始めようと思い、近所の整形外科のクリニックでパートをはじめました。長く働きたいと思っていたので、家から近いというのも魅力でしたが、高齢の患者さんが多かったというのも魅力の一つだったと思います。仕事の内容は、看護助手として外来では看護師さんのサポートをしたり、入院の病棟では入浴介助などをしていました。無資格・未経験だったので、最初は分からないことも多かったです。

— おばあちゃんの介護をきっかけに
介護をもっと学びたいと思いました

本格的に介護の仕事をしたと思ったきっかけはおばあちゃんの介護をしたことかなと思います。最期の2～3年は、家族みんなで協力しながら自宅で介護をしました。訪問看護や訪問介護のサービスも使っていたので、看護師さんや介護士さんにいろいろと教わりながら介護をしていましたが、もっと専門的なことを知りたいと思うようになって、初任者研修を受講しました。クリニックでの仕事と子育てとおばあちゃんの介護をしながらだったので、週末に時間を作って3か月くらい通いました。修了したら、現場で働いてもっとたくさんの経験を積みたいと思うようになったので、自宅の近くのフレンドピーチで働き始めました。

❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— まるで大きな家のような、暖かな場所でした



施設を見学したとき、良い意味でイメージとのギャップがありました。わたしが抱いていた特別養護老人ホームのイメージは、長い廊下があって両脇にお部屋がある病院のような施設だったのですが、実際は、まるで大きな1つのお家のようにとても綺麗で暖かな雰囲気でした。フレンドピーチは、ユニット型という形態で、1ユニットで10人の利用者さんを介護しています。職員と利用者さんも顔馴染みになるのが早く、お互いにとってメリットだと思います。

初任者研修で介護の基本的なことは学びましたが、利用者さん一人ひとり、介護の仕方が変わるので最初のうちは大変なこともありました。でも、同時に楽しさもあります。認知症がある利用者さんとお話していると、それぞれにご自分の世界があることが分かります。その世界に飛び込むつもりでお話するのが楽しいです。あと、「ありがとう」と言ってもらえる時は、やりがいを感じます。

❗ 仕事以外はどんな生活をしている？

— 子どもと一緒にゲームで遊ぶのが楽しみです

子どもが小学生なので、週末に休みが取れば一緒に過ごしています。ゲームやアニメが好きなので、子どもと一緒にゲームをしたりして遊んでいます。わたし自身はもともとインドア派なので、コロナ禍になって外出がしにくくなってもあまり苦ではなかったですね(笑)

今後の目標は、まずは資格を取りたいです。介護福祉士や認知症ケアに関する資格を取りたいです。そして、ゆくゆくは、介護保険サービスを提供できる事業所を家族で運営したいと思っています。今は両親が、重度の身体障がいの方をサポートする事業所を運営しているのですが、将来的には高齢者の支援も出来たらいいなという話を家族としています。できれば、その部分を任せてもらえるようになればいいなと思っています。そのためにも今はしっかり経験を積んでいきたいと思っています。



取材を終えて

認知症のあるご利用者さんにそれぞれの世界があると語られる時の、大変優しい笑顔が印象的でした。これからも夢に向かって頑張ってください。